

生育に応じた栽培管理について③

R5.12 アグリ技研（株）

1.立茎時期に考慮した春芽の保温時期について（多年生株の場合）

立茎を3/下～4/上旬の予定する場合

後半の莖葉状況

刈取及び保温時期

①莖葉は黄金色に仕上がる
(80～100点)



収穫期間を35～45日程設定する場合で、
刈取は2/上旬、保温時期を2/中旬

②10/下旬以降に茶色なる
(70～80点)



収穫期間を30日程に設定する場合で、
刈取は2/中旬、保温時期を3/上旬

③9/上旬以降に茶色なる
(50点)



収穫期間を25～30日程に設定する場合で
刈取は2/下旬、保温時期を3/上旬

2.保温時期の留意点について

- ①保温時期の蒸し込みは、一気にハウス内温度を上げて萌芽を促すために天候を確認しながら必ず晴天日（継続時）に行いましょう。
- ②地温18～20℃以上で萌芽は活発になりやすく、蒸し込み後の萌芽促進までには積算温度で100～120℃は必要ですからダラダラでは萌芽鈍化します。
- ③地温やハウス内温度を上げるためにも被覆資材の密閉度や汚れは収穫に大きく影響しますから事前の対策に努めましょう。

春芽の収量は後半の生育量で影響します・・・でも可能性を最大限発揮するためにも生育に応じた適正な管理作業を実施しましょう。